

あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース



旭町ローズガーデン（撮影 阿部会員）

令和3年 6月号 Vol. 206
(2021年)

発行：令和3年6月23日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 阿部 啓冊

《2019年度以降入会の会員紹介》

2019年度末より新型コロナの流行があり、感染防止のため多くの行事が自粛されました。あつぎ観光ボランティアガイド協会も企画していた行事を中止し活動がままならない状況となりました。それにもかかわらずあつぎ観光ボランティアガイド協会に入会して下さった皆さんがいらっしゃいます。行事が中止となることが続き、会員同士がなかなか顔を合わせる機会がないため、今回は2019年度以降に入会された会員の皆さんに自己紹介を兼ねた寄稿をお願いしました。 (編集担当)

成田和男（2019年度入会）

私の友人が鹿児島で観光ボランティアとして名所、旧跡の案内を薩摩男のプライドとしてやっています。私も人前で話をするのは好きなので入会しました。ところが厚木は自然に囲まれているものの鹿児島のような名所旧跡がない。厚木を小江戸と称した時期がありましたよね！「何が小江戸だ！それらしきものが何も無い」と思っていました。関東大震災前まではあったんです。川越に負けないくらい。相模川沿いに“あゝ九月一日”と書いた石碑が建てられています。

そうだったのかぁ・・・厚木観光ボランティアに入って良かったと思うことはそれに気づかされたことでしょうか！！

毛利八寿世（2020年度入会）

「厚木に住んで25年経つのに地域のことを何も知らなくて」…その思いから昨年夏に入会をさせていただきました。

コロナ禍の現在、具体的な活動はまだ困難な状況ではありますが、定例会や勉強会を通じ、知識・経験の豊富な会員の皆様からたくさんのことを学ばせていただいております。

昨秋より【獨案内】を見ながらひとり古道歩きを始めました。恵まれた自然の中、多くの文化財に触れその歴史の奥深さを感じると共に、道々にお祀りされている石祠や道祖神やお地蔵さま、神社に建つ狛犬など、これまでつい見逃してしまっていた様々な出逢いも私の楽しみの一つとなりました。

どうぞよろしくお願い致します。

重富 聡子 (2021 年度入会)

3月の養成講座に参加し、4月に入会いたしました。厚木市民歴が長い割には、街伝説を語れるほどの知識もなく、「住みたい街・厚木のイチオシは？」と聞かれても、ありきたりの答えしか思い浮かばない『鳴かず飛ばずの厚木市民』です(〜;)。

が、養成講座で教えていただいた事をイメージしつつ、謎解きしながら街の魅力を再認識中です！

最近のマイブームはガーデニングとキッチン菜園で、インドア派?かと思いきや、実は旅行が大好きで、新たな発見や非日常の出来事に人一倍ワクワクしてしまう傾向にあります。(今一番欲しい物=キャンピングカー)

アフターコロナでまた自由に旅行ができるようになる頃には、『鳴いて飛べる厚木市民』として街の魅力発信と活動に関わっていただけるよう、先輩方から多くを学び見聞を広めてまいりたいと思います

小林直樹 (2021 年度入会)

私は、きょろきょろ周りを見ながら歩くのが好きです。史跡の案内板があると立ち止まって隅から隅まで読んだり、面白そうな店に入って見入ったりします。

厚木に住んで40年ほどになりますが、今までこの町をゆっくりと見て歩くことがありませんでした。

昨年からは、退職を機に市で発行のパンフレット等を参考にあちこち歩き始めました。

今回、この入会をきっかけに、新しいことを勉強し、家族や周りの人に紹介していきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



会員投稿

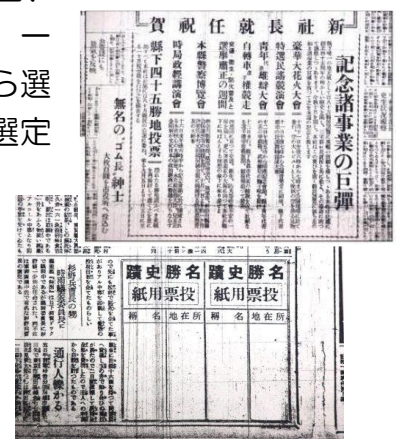
《神奈川県下名勝史蹟四十五佳選》

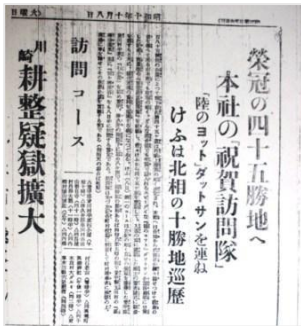
阿部 啓冊

昭和2(1927)年、大阪毎日新聞社と東京日日新聞社が山岳、溪谷、瀑布、温泉、湖沼、河川、海岸、平原の8部門について、一般からの投票で候補地を選び、文人、画家、学者、政治家等から選ばれた選考委員により日本八景(日本新八景とも言います)を選定し、昭和6(1931)年には自然公園法の前身である国立公園法が施行され、瀬戸内海国立公園、雲仙国立公園、霧島国立公園の3か所が最初の国立公園として指定されました。

このような中、昭和10年、横浜貿易新報(現神奈川新聞)は創業45周年事業として購読者の投票により神奈川県の名勝や史蹟を選定しています。毎日の新聞に掲載された投票用紙を切り取り、推薦する名勝や史蹟を記入して新報社に送付するという方法で9月から10月にかけての一个月間募集が行われました。

どの場所に何票投票されたかということは新聞紙上に発表され、地元の村や関係団体による投票合戦は過熱したそうです。投票は400万票から500万票あったといわれています。昭和10年の県人口について新報は180万人と伝えていますが大変な過熱ぶりで、新報は、その様子を「『丹沢宮ヶ瀬』では全村本紙購読を決議して溪谷の優地を栄光の四





十五勝地当選せしめんと奮い立ち、高座座間でも由緒の鎮守『座間神社』を出すべく氏子一同悲壮な決意にて燃え立ち・・・」（9月17日）、「市内浅間町『浅間神社』の台頭も天晴れな闘将振りて、氏子総代、町内有志は檄を飛ばして投票の集積に懸命の努力である。集票戦は市内から郡部へ入り・・・」（9月19日）と伝えています。

第一位となったのは「石小屋」（愛川）で、28万5千票余りを集めました。厚木の「広沢寺温泉」が選ば

れたほか、県央地域では「八菅神社」（愛川）、「宮ヶ瀬溪谷」（清川）、「高森導了尊」（伊勢原）、「志田山朝日寺」（相模原市）、「三眼六足稻荷」（海老名）なども選ばれました。神奈川の県民によって選定された四十五カ所の名勝地には、新報社の祝賀訪問隊が当時の最新鋭車「ダットサン」で訪問し、認定書が渡され記念碑が建立されています。



広沢寺温泉の記念碑

参考資料：横浜貿易新報（昭和10年9月～10月）



会員投稿

《鶺鴒神宮参詣》

寺田 敏

2019年8月に「熊野大花火と夏の日本南国めぐり9日間」というキャッチフレーズでダイヤモンド・プリンセスに乗船してクルーズ旅行に出かけました。

日程は、横浜出港→和歌山市下津港→高知港→釜山港（韓国）→長崎港→宮崎県日南市油津港→横浜帰港でした。

油津港に接岸すると、目の前に新聞や雑誌の原料になる輸入木材チップが7～10m位に、うず高く大量に積まれていて異様な風景でした。直前の長崎港は華やかなクルーズ船ターミナルでしたので場違いな所に来たなと感じました。滅多に客船が寄港しない港ほど街をあげての大歓迎をしてくれます。

ダイヤモンド・プリンセスは観光客が約3,000人も乗船している大型のクルーズ船ですから、なおさらです。クルーズ船を見慣れた長崎では出入港時に何もありませんでしたが油津港は大変な歓迎です。



岸壁にテント張りの臨時観光案内所と10軒近い売店が並び、出港時には地元日南市の10名位の鼓笛隊が演奏してくれて、黒装束の忍者と甲冑を着た侍と綺麗な日南サンフレッシュ・レディ（ミス日南？）の3名の方が見送ってくれました。

寄港先の観光は船や各旅行会社が企画するバスツアーが幾つもありますが、家内と2人分の料金が必要です。かなり割高なので事前に調べて、徒歩と路線バスとタクシーで巡りました。

油津港付近に「九州の小京都」と言われている伊東氏5万1千石の飢肥（おび）城址と風情と情緒のある小さな城下町があります。

サムライに興味のある外国人は殆どそちらの観光に出かけました。

私達夫婦は港から臨時のシャトルバスに乗って JR 日南駅前に出て、そこから路線バスに乗り換えて鵜戸神宮に向いました。

鵜戸神宮

一般的に神社は鎮守の森に囲まれた参道を通る所が多いのですが、鵜戸神宮は海に突き出した崎の先端にある絶壁の洞窟の中に建っているため、岬の周りの岩礁に太平洋の荒波が打ち寄せている美しい景色を見ながら階段を降りて、朱塗りの色鮮やかな本殿にたどり着きます。

主祭神は神武天皇（初代天皇）の父である天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命（アマツヒコヒコナギサタケウガヤフキアヘズノミコト）意味は「アマツヒコヒコ→天照大神の嫡流の日嗣の御子、ナギサ・タケ・ウガヤ・フキアヘズ・ノミコト→渚にある産殿の屋根を鵜の羽で葺き終わらぬうちに生まれた元気な勇ましい男神」他4柱を祀り、古事記にも記載されていて神話の時代から存在しています。

皇室の祖神を祀っているので神社ではなく神宮に格付けされて、国の指定名勝にもなっています。



本殿



御乳岩

御乳岩

豊玉姫（初代神武天皇の祖母）は海神（わたつみ）の娘でワニ（古代のサメ）の化身。兄の海幸彦の針を探しに「わたつみの宮」に来た山幸彦と結婚し神武天皇の父であるアマツヒコヒコナギサタケウガヤフキアヘズノミコトを産む。出産の時に「絶対に見ないで」と言ったのに夫の山幸彦はサメの姿に戻って出産している豊玉姫を見てしまい、本当の姿を見られて恥じた豊玉姫は海に戻ってしまいました。

残された乳飲み子（神武天皇の父）為に自分の乳房を岩に貼り付けたと言われています。

今も岩清水が滴り続けています。その後、豊玉姫は乳飲み子の養育を妹の玉依姫に託し地上に派遣しました。古事記に書かれている神話のロマンの世界です。

参考資料

※鵜戸神宮発行パンフレット

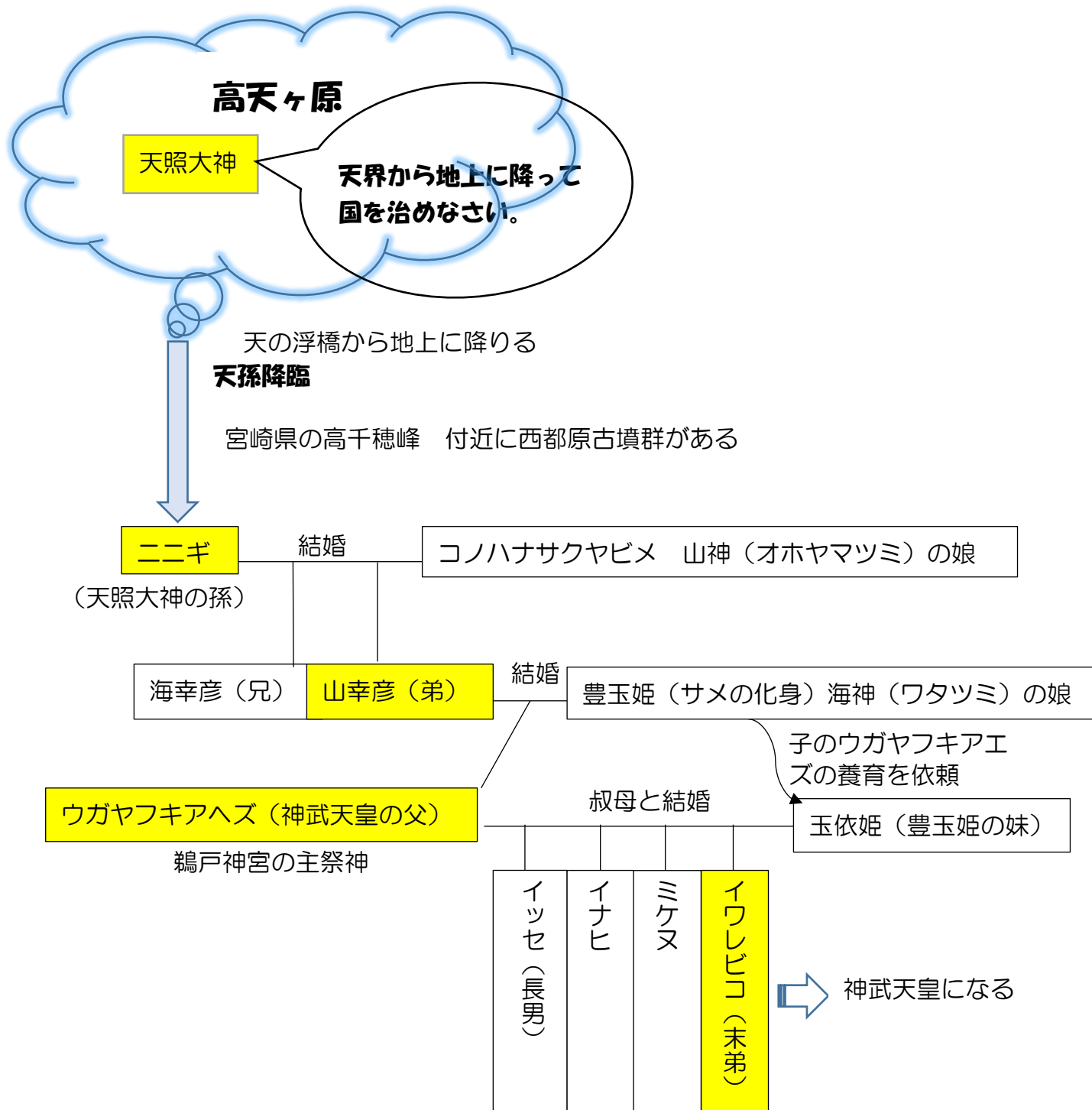
※口語訳「古事記」訳・注釈 三浦祐之

※田辺聖子の古事記

※図説 地図とあらすじでわかる 古事記と日本書紀 監修 坂本 勝

鵜戸神宮と古事記 関係図 ※黄色が鵜戸神宮の祭神

※神々の名前は解り易く解説した参考資料の記載通り、そのまま載せました。複数の呼び名のある神様は1つにしました。諸説あります。



神武東征

「天下を治めるには、ここは西に寄り過ぎている。もっと東に行こう。」

長男のイッセと末弟のイワレビコは部下を引き連れて東征の旅に出る。

途中、幾多の戦いをしてイッセは戦死し、残ったイワレビコは大和 (奈良県) に入り制圧。

即位して初代の神武天皇になる。

最近の活動

日 時	場 所	内 容	参 加 者
5月26日	秦野市	かながわガイド協議会訪問ガイド 秦野の名水さんぽ	会員 1名
5月：かながわガイド協議会総会 書面審議			
6月 5日：会員研修「中依知の日蓮上人を辿る」は延期			
6月12日：定例会・勉強会は中止			

令和3年6月・7月 行事予定

	日 時	行 事	会場・場所	内 容	申 込 先
6月	26日(土) 09:00~16:00	春季観光客入込み調査	市内5箇所	観光客調査 (10名)	サークルスクエア
7月	10日(土)に予定されていた定例会・勉強会は中止となりました。 (厚木市のまん延防止処置が再延長されたため)				

お願い 行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。
提出期限は定例会の1週間前(編集会議と印刷のため)

編 集 後 記

巻頭の写真は旭町ローズガーデンです。この季節になるとローズガーデンにはバラが咲き誇っていますが、散策している方はあまり見かけませんでした。近くの広場の駐車場も閉鎖されていますので、なかなか散策しにくい時期かと思えます。ローズガーデンは2013年に開園。相模川景観づくり推進会と神奈川県、厚木市により整備されています。

今月号は、時節柄、あまり顔を合わせることができない19年度から21年度に入会された皆さんにお願いして自己紹介をしていただきました。

ご協力いただきありがとうございます。早くみんなでいろいろな活動を再開したいものです。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子